

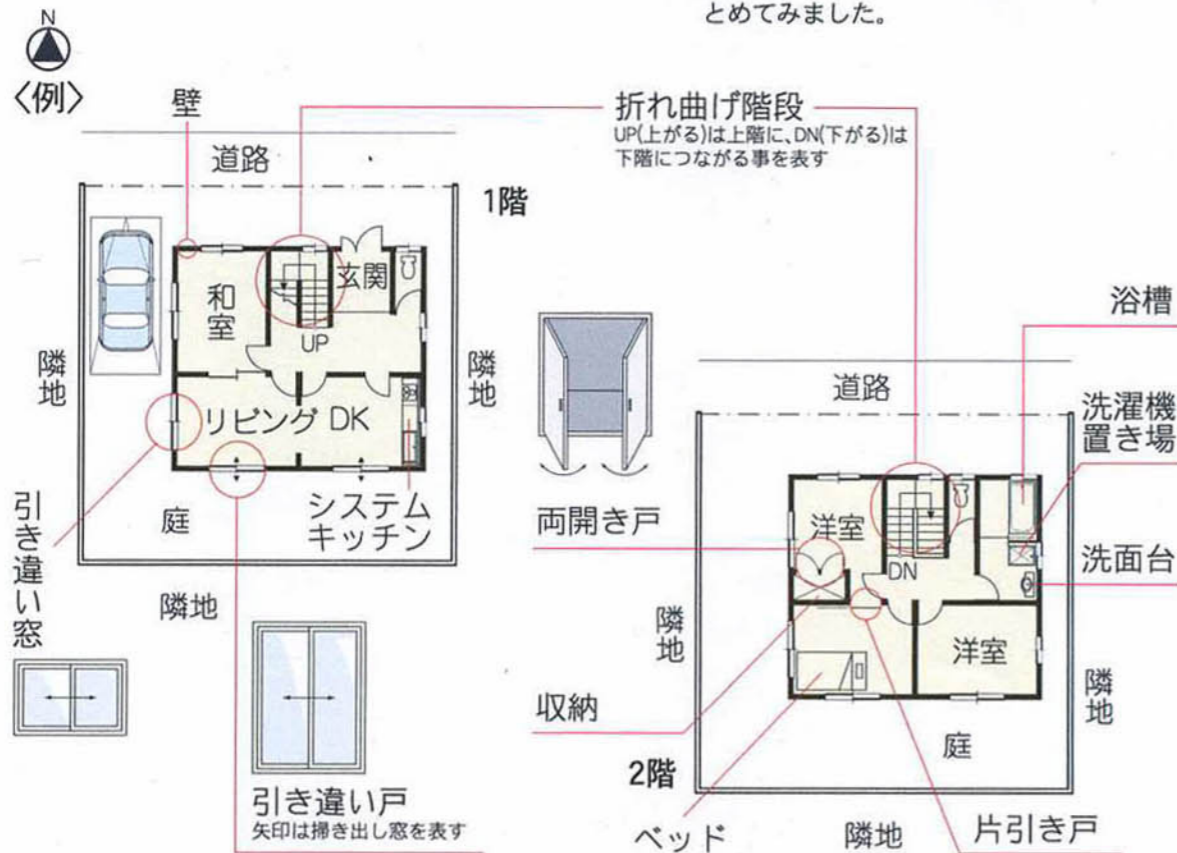
# 敷地条件、ライフスタイルを考慮

## プランニング②

敷地の条件をうまく生かし、間取りを考えていく「プランニング」。後編では、建築士に要望を伝える上で知っておきたい平面図の見方や、敷地の条件やライフスタイルに応じたプラン例、LDKの配置について取り上げます。

### 平面図の見方

前ページで紹介した平面図には、材料や構造、建具、家具などを表す記号が使われます。記号の意味を知っておくと、要望もスムーズに伝えやすくなります。ここでは、実際の図面を参考に、その見方についてまとめてみました。



# 豊かな住空間生むプラン3例

住宅密集地や狭小地、傾斜地といった厳しい敷地条件でも豊かな住空間づくりはできます。ここではその事例を挙げてみました。

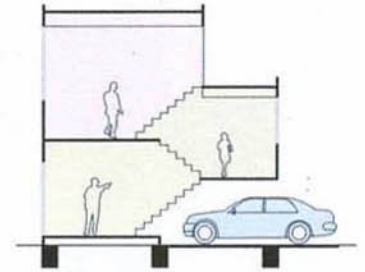
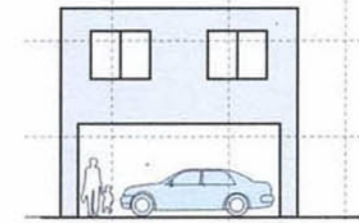


### ピロティー

建物を柱や壁で支え、自由に通り抜けられるよう開放された空間を指します。狭小地でも、主に駐車場や玄関アプローチのスペースを確保しやすい

### コートハウス

建物の壁や塀によって囲われた庭のある住宅のこと。狭い敷地や密集地でも、プライバシーを保ちつつ、家の中に光を取り込むことができます



### スキップフロア

半階ずつずらした床のある段状の空間構成のこと。一般に傾斜地や高い建物が建てられない住宅密集地などで採用されます。また平坦な敷地でも、通風・採光・プライバシーを保ちつつ、各階がほどよくつながり、変化に富んだ室内を実現できます

## LDK、キッチンの配置

間取りを考える際、中心となるのがLDK。一体的な空間にして、家族や親しい人たちとのコミュニケーションを重視したいのか、食事とくつろぎの空間を分けたいのかといった具合に、住み手のライフスタイルによって決まってきます。

またLDKの配置に合わせて、キッチンのレイアウトもほぼ固まってきます。ライフスタイルはもとより、必要となるスペースや作業効率も加味した上で、使い勝手のいい形を考えていくことが大切です。

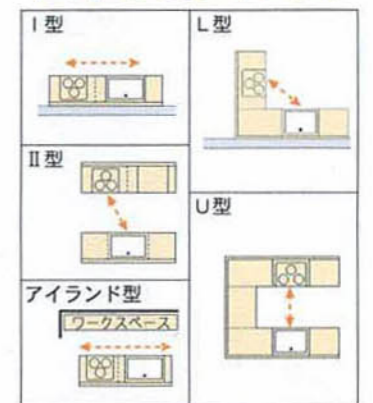
### LDKの位置

LDKを一体型にしたワンルームタイプ。仕切られてはいないものの、ダイニングテーブルを置いている所が食事スペース、ソファが置いている所がリビングスペースといった具合に、家具のある場所によって空間が分かれます。そのため、キッチンはオープンタイプとなります。ダイニングがリビングの機能を兼ねる、DKタイプもこれに当たります。食事をするとくつろぐ人が、互いにコミュニケーションを取りやすい反面、においや音が周囲にもれやすいので注意を



リビングを、ダイニングから独立した空間として、引き戸などで仕切るタイプ。キッチンも独立型が採用されることが多い。食事とくつろぎの空間を分けることで、来客を気にせず食事を楽しむことができ、においや音もれを気にせず済みですが、リビングとダイニングの間でのコミュニケーションが取りにくい

### キッチンのレイアウト



I型...場所を取らないシンプルさが魅力。しかし、壁に向かっての作業となり、家族との会話ができない  
II型...動線が短く、コンパクトで便利  
L型...数人での作業が楽。しかし、コーナーは奥行きが深いと使いづらいので注意が必要  
U型...配膳スペースが広く大家族向き  
アイランド型...四方から使えて大人気で調理が楽しめるが、オープンな分、常に片づける習慣が必要